

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

平成 30 年 2 月 5 日発行

No. 14 校長 矢口 仁

オリンピック精神を思う — 自分との闘い —

校長 矢口 仁

我春も上々吉よ 梅の花 小林 一茶

二月に入りました。二月は「梅見月」「木の芽月」「雪解月」などの異称があります。昨日が「立春」でしたが、春の花が咲き出すのはまだ先の様です。今年は特に寒さが厳しく、暖かい春が待ち遠しく感じられます。



さて、今週 9 日から韓国の平昌（ピョンチャン）で冬季オリンピックが開催されます。スピードスケートやジャンプ、フィギュアスケート、複合、スノーボード等、期待される種目が多くあり、楽しみです。選手たちは、プレッシャーに負けないでのびのびと力を発揮してほしいものです。

さて、元来「オリンピック精神」は、近代オリンピックを提唱したピエール・ド・クーベルタン男爵による「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、友情・連帯感・フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献する」ということです。

しかし、近年のオリンピックを巡る話題は、勝利至上主義や商業主義が前面に出てしまい、本来の精神に反することが多くなっているのが残念に感じます。

2014 年のソチオリンピックにおけるロシアの国家ぐるみのドーピング問題は、今回のオリンピックにまで大きな影響を与えました。ロシア選手団は、平昌オリンピックに国としての参加を認められていません。潔白を証明できる選手は個人として参加が認められたことがせめてもの救いです。

夏のオリンピックに関連しては、日本のカヌー選手がライバルである選手の飲み物に禁止薬物を入れ、その選手を資格停止にしたことが発覚しました。人の道に反する、絶対にあってはならないことです。オリンピックという特別な意味をもつ大会が、人の心を乱し、「オリンピック精神」とは違う方向に導いてしまいました。

スポーツのよさは、共に汗をかきながら苦勞を乗り越え、仲間を尊敬しつつ、自己を高めることにあると思います。最終的には自分との闘いです。競技ですから相手があるのは当然ですが、自己の記録をいかに伸ばすかに全力を尽くすことが目的のほうです。

スポーツに限らず、人が生きていくことは、周囲の人から学びながら、自分を少しずつ成長させること、そしてよい社会をつくることだと思います。中学生には、本当の「オリンピック精神」を学び、身に付けてほしいと強く願っています。